

「地域計画策定に向け、市内全域26区で説明会を開催」

京都府 京田辺市農業委員会

1 農業委員会の体制と市町村行政との連携状況

○ 農業委員：	○
○ 農地利用最適化推進委員：	○
○ 事務局職員：	○
○ (関係団体名)：	現地推進役
○ 市町村行政との連携状況：	農業委員会の最適化推進会議や地区連絡会議に市が出席している



2 地区の特徴、状況、課題

- 京田辺市は関西学研都市に位置し、近鉄、JRが市の中央部を南北に走り、京都市、大阪、奈良への利便性が良く、丘陵地を中心に新興住宅地が開発され、都市化が進み、人口が増加している
- 市内5地域（旧集落26区）あり、地域計画策定には、各区から寄せられる策定結果が必要となる。



3 委員による継続した話し合いの取組内容

- 最適化推進会議で、農業委員会委員に地域計画策定の行程を説明
- 市内26区で地域計画策定に向けた説明会と現況地図の作成を実施
- 現況地図を囲んで話し合いを行うことで地域の実情を認識・共有する
- 話し合いのあと、地域内の「筆ごとの耕作者等一覧表」を作成
- 一覧表完成後、事務局が地図システムに入力し目標地図を作成
- 京都府統合型GISを用いて、今後のデータ更新を容易にする
- 令和6年3月末までに、全区で一覧表完成を目指す

4 成果（京力農場プランの目標実現に向けた取組内容）

- 集落単位で農業関係者が話し合いを行うことで、各集落の問題点や今後対策が必要な農地等を可視化し、共有することができた。さらに、話し合いの場を持つことや定期的な開催の必要性を認識することができた。
- 筆ごとの耕作者等一覧表を作成し、京都府統合型GISにデータ入力することで、目標地図を作成するとともに、今後のデータ更新の簡便化につなげる。

※事例候補（地区連絡会議の単位が望ましい）の選定や作成にあたっては、農業会議の現地推進役と相談してください